

## 令和3年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

いかなる国際情勢の中でも生き抜く人材育成をめざす。

- 1 自分の意見を堂々と言える能力の育成
- 2 得意技を身につけさせる
- 3 進路指導の強化

## 2 中期的目標

## 1 学力を向上させる

- (1) 学習の目標を明確に理解させる
- (2) 学習・学校行事・部活動・家庭生活時間のバランスを考え、自己の時間管理をすることで、授業外での学習時間数を向上させる。
- (3) 少人数展開授業により学習理解を深化させる。
- (4) 3年生において入試対策に向けた学習がより効果的に進められるよう、1・2年生の学習内容の定着を図る。
- (5) 土曜日を学習活動のために有効活用する。
- (6) ICTを活用するなど、教員の授業力を向上させるため、授業改善を図る。

※目標とする教育産業模試(年度最終)の平均点全国偏差値 (\*は、3年生で数学が必要な生徒対象)

1年グローバル科			1年普通科			2年グローバル科			2年普通科		
国	数	英	国	数	英	国	数	英	国	数	英
55以上	53以上	58以上	53以上	52以上	52以上	55以上	53以上*	58以上	53以上	52以上*	52以上

※学校教育自己診断(授業外の学習機会)に対する生徒の肯定的回答90%以上を毎年維持。(H30:86%, R1:89%, R2:90%)

※授業外での学習時間の目標を達成する。(週当たり時間)

1年グローバル科	1年普通科	2年グローバル科		2年普通科	
18.5時間	12.5時間	文系	理系	文系	理系
		19.5時間	19.5~20時間	14時間	14.75~15.25時間

※12月の生徒による授業評価で、3ポイント(1~4ポイントで評価)以上の教員を70%以上を維持、全教員の授業アンケート総評の平均を3.2以上を維持する。(H30:90%, R1:88%, R2:90%) (H30:3.31, R1:3.30, R2:3.33)

## 2 論理的思考力、批判的思考力及び表現力を鍛え、多様性を受入れる態度を醸成する

- (1) 授業「IM」(グローバル科「学校設定科目」及び普通科「総合的な探究の時間」)で論理的思考力及び批判的思考力を育成する。
- (2) 各種講演会や研修会を開催し、主体的に興味を持ち意見を述べる態度を育成する。
- (3) 国際交流事業等を積極的に展開し、多様性を受け入れ、他国の人々と協働する態度を育成する。

※授業「IM」に対する生徒による授業アンケート3ポイント以上を毎年維持。(H30:3.42, R1:3.38, R2:3.47)

※各種講演会・研修会の事後アンケートで肯定的意見70%以上を維持。(H30:95%, R1:93%, R2:未実施)

## 3 得意技を身に付けさせる

- (1) 英語4技能5領域を総合的に学習し、発信力を向上させる。
- (2) 英語以外の教科や課外活動等で知識や技能を向上させる。
- (3) 高大連携を推進し、より高度な学習への意欲を醸成する。

※英語の外部検定(GTEC for STUDENTS+Speaking)スコア目標 ※数値は累計

グローバル科	1年(Basic 1080点満点)	960点以上 4名、832点以上 20名、704点以上 60名、640点以上 80名
	2年(Advanced 1280点満点)	1088点以上 3名、960点以上 10名、832点以上 55名、704点以上 80名

※高大連携事業の実施後アンケートの肯定的意見70%以上を維持。(H30:95%, R1:90%, R2:未実施)

## 4 進路指導を強化する

- (1) 入学時から大学入試等の情報を提供し、自らの進路目標を立てさせることを通して学習意欲を高め、自己実現を支援する。
- (2) 学習到達度を定期的に測定しながら、自己実現に向けた具体的な支援を行う。
- (3) 教育産業の進路情報を積極的に活用し、進路選択を支援する。

※学校教育自己診断の設問「きめ細かな進路指導」に対する生徒・保護者の肯定的回答を毎年70%以上維持 (H30:85%, R1:88%, R2:87%)

※めざす大学合格者数(現役生)

旧帝大、早稲田・慶応・上智大等	関西圏の主な国公立大、同志社・立命館・関西学院大、MARCH等	他の地方国公立大、関西大等	海外の大学
10	75	120	5

## 5 修学が困難な生徒を支援する

- (1) 支援チームを立ち上げ、個別のケースに対応した指導を行う。
- (2) 支援を必要とする生徒・保護者への教育相談を行う。

※学校教育自己診断の設問「生徒の相談に丁寧に応じている」に対する生徒・保護者の肯定的回答80%以上を毎年維持 (H30:88%, R1:86%, R2:89%)

## 6 校務整理と人材育成を図り、教育効果の高い学校運営を行う

- (1) 人権教育推進の観点を踏まえ、学校としての方針を定め、各学年・分掌の長の責任と権限により、効果的かつ迅速に学校運営を行う。
- (2) 経験年数が少ない教員を積極的に登用し、人材の育成を図る。
- (3) 学校運営協議会の提言を踏まえ、学校運営の改善を進める。

## 7 学校を広く発信する

- (1) 学校説明会及びパンフレット等の広報媒体を充実させる。
- (2) 本校の教育方針・教育活動について、あらゆる機会・方法を活用して積極的に発信する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>「本校に入学してよかった(92%)」「授業以外の学習機会がある(91%)」「教員は親身になって相談にのってくれる(92%)」「進路相談が十分行われている(92%)」という設問に対する生徒の満足度がそれぞれ高いことは特筆すべきであると考えられる。一方、「家庭学習によく取り組んでいる(56%)」「得意技を身に付けることを意識している(61%)」という生徒に対する設問や「授業が分かりやすい」「家庭学習によく取り組んでいる」という保護者に対する設問の回答結果から、本校の学校経営計画上の課題、特に「生徒の学習時間の確保」と「授業改善」は未だ達成途上であると考えられる。</p> <p>引き続き、校長のリーダーシップのもと、教職員が一丸となって学校経営計画の達成に向けて努力していきたい。</p>	<p>第1回(6月5日)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 家庭学習は、時間数だけでなく、何をさせて評価にどう組み込むか明確にすべき</li> <li>② 国際交流は機会を減らさないように。一度中断すると再開に労力が必要になるため</li> <li>③ 国公立大学へ合格100名以上をめざすならば、理系へも注力すべき</li> </ol> <p>第2回(8月27日)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① コロナ禍で学校行事が実施できなくなっても、学校の特色を出せる方策を検討すべき</li> <li>② ICTを活用し、教員の省力化や広報活動の推進につなげるべき</li> </ol> <p>第3回(1月21日)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 来年度から始まる観点別学習状況評価の導入に向けて万全を期すべき。</li> <li>② 在校生に大学の魅力を伝えてもらうため、大学に進学した卒業生の活用を検討すべき。</li> <li>③ コロナ禍でも部活動が低調にならないように工夫すべき。</li> </ol>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1 学力を向上させる	<p>(1) 学習目標・内容・学習方法の明確化</p> <p>(2) スケジュール管理等による1・2年生の授業外学習時間の向上</p> <p>(3) 進路・習熟度別に講座編成し、学習内容の理解を深める</p> <p>(4) 日々の学習内容の定着を積み重ねる</p> <p>(5) 土曜日を有効な学習の機会として活用する</p> <p>(6) ICTの活用及びアクティブラーニングによる授業研究を進める</p>	<p>(1) 各教科の学習内容や目標・目的及び授業の進め方や家庭での学習時間の枠を意識した家庭での学習方法について説明を行う。</p> <p>(2) ①教科毎の1週間における授業外学習時間の目標を示す。 ②自己のスケジュールを管理させる。 ③補習、講習を効果的に実施する。</p> <p>(3) 2年生数学を進路別、2年生英語を習熟度別に編成する。</p> <p>(4) 小テスト、宿題考査、追試、指名者補習等を有効的に連動させる。</p> <p>(5) ①1・2年グローバル科は隔週に土曜授業を実施する。 ②3年生は希望者講習を実施する。</p> <p>(6) ①教員のICTを活用した授業研修を年2回実施する。 ②アクティブラーニングの研修を年2回実施する。 ③教員の相互授業見学や観点別評価に関する研修会等を通して、授業力を向上させるとともに評価に関する知識・技能を深める。</p>	<p>(1) (3) (4) (5) ・教育産業模試(11月実施)偏差値平均 グローバル科 1年:国55以上/数53以上/英58以上 2年:国55以上/数53以上/英58以上 普通科 1年:国53以上/数52以上/英52以上 2年:国53以上/数52以上/英52以上</p> <p>グローバル科 1年:国53.0/数54.3/英53.2 2年:国52.8/数50.2/英51.2</p> <p>普通科 1年:国50.0/数47.8/英47.8 2年:国49.2/数46.1/英45.2</p> <p>(2) 週当りの授業外学習時間校内平均(時間)、昨年度を上回る。</p> <p>&lt;1年&gt; グローバル科:12.6/普通科:8.1 学年平均 9.1</p> <p>&lt;2年&gt; グローバル科:文系8.6/理系9.4 普通科:文系6.9/理系8.0 学年平均 7.7</p> <p>(6) ①教員のICT活用率70%以上を維持する。 [86%] ②授業アンケート(2回目)の「教材活用」3.3以上を維持する [3.35] ③全教員の授業アンケート総評の平均 3.2以上を維持する [3.33]</p>	<p>(1) (3) (4) (5) ・教育産業模試(11月実施)偏差値平均 グローバル科 1年:国53.2/数50.2/英52.2 2年:国51.9/数49.8/英50.5 普通科 1年:国49.1/数48.4/英46.1 2年:国46.7/数45.3/英43.5 (△) 今回の偏差値平均が評価指標から下がっている要因と考えられることとして、 ・評価指標設定時に利用していた教育産業の模試を、より高い学力層が利用する別の教育産業の模試に今回変更したこと ・感染症の感染拡大により、文化祭、体育祭等が全て9月に行われ、生徒が落ち着いて学習できる環境が維持できなかったことが考えられる。</p> <p>(2) 昨年度に比べ、1年生は両科とも下がったが、2年生はグローバル科文系を除き、昨年度を上回った。家庭学習の時間と内容については、今後とも精査し改善していきたい。</p> <p>&lt;1年&gt; グローバル科:5.7/普通科:6.6 学年平均 6.4 (△)</p> <p>&lt;2年&gt; グローバル科:文系5.4/理系10.5 普通科:文系7.7/理系8.0 学年平均 7.9 (○)</p> <p>(6) ①ICT活用率 80% (○) ②教材活用 3.54 (○) ③総評平均 3.41 (○)</p>
2 鍛え、論理的思考力、批判的思考力、多様性を受入れる態度を醸成する	<p>(1) ①論理的思考力・批判的思考力を育成する ②説得力のある論理的な文章を作成する能力を育成する</p> <p>(2) 多角的な情報収集力・思考力を育成する</p> <p>(3) 語学力、多様性の享受、協働的態度、思考力を育成する</p>	<p>(1) ①独自教材の更新を行い、思考力の向上を図る。 ②論理的な組立てによる小論文作成力を習得させ、学校設定科目「グローバル情報」及び「社会と情報」と連携してプレゼンテーションソフトによる発表を行う。</p> <p>(2) 外部講師を招聘した講演会や討論会を実施する。</p> <p>(3) ①地域の学校支援 NPO と連携した海外語学研修のみならず、他国の人々と議論・調整・協働する修学旅行等を実施する。 ②海外での研修やオンライン交流等を通してグローバルマインドを涵養する。</p>	<p>(1) ①② IMに対する生徒による授業評価3ポイント以上を維持する [1年3.44, 2年3.47]</p> <p>(2) 実施後アンケートで肯定的な回答90%以上を維持する [未実施のため、アンケートの実施不可]</p> <p>(3) ①実施後アンケートで肯定的な回答90%以上を維持する [修学旅行99%] ②海外研修等への参加者数40名以上(修学旅行を除く)を維持する。 [未実施]</p>	<p>(1) ①② IMに対する生徒による授業評価は、1年3.42、2年3.68であった。(○)</p> <p>(2) キャリアデザインに関する講演会を実施し、肯定的な回答94.5%であった。(○)</p> <p>(3) ①修学旅行に対する肯定的な回答99%であった。(○) ②海外研修に代えて通学制で実施した、語学研修2回、SDGs研修1回に計101名参加した。(◎)</p>
3 得意技を身に付けさせる	<p>(1) 英語4技能5領域を総合的に学習し、発信力を向上させる</p> <p>(2) 英語以外の教科や課外活動等で知識や技能を向上させる</p> <p>(3) 高大連携を推進し、より高度な学習への意欲を醸成する</p>	<p>(1) ①グローバル科の授業「英語超人」等において英語4技能5領域を中級レベルに引き上げる。 ②NETによる英会話講座を昼休み等実施する。 ③普通科・グローバル科における英検検定試験の受験を奨励する</p> <p>(2) ・英語以外の教科や課外活動等で活躍させるために、コンテスト等への応募や課外活動等を奨励する。</p> <p>(3) ・大学の講義を受講させたり共同研究などを行ったりする。</p>	<p>(1) ①GTEC for STUDENTS+Speaking 1年:960点以上 4名/832点以上 20名 704点以上 60名/640点以上 80名 2年:1088点以上 3名/960点以上 10名 832点以上 55名/704点以上 80名 (1年 Basic 1080満点、2年 Advanced 1280点満点) 1年:760点以上 4名/655点以上 15名 535点以上 65名/395点以上 80名 2年:825点以上 0名/760点以上 4名 655点以上 26名/495点以上 76名 (1年820点満点、2年980点満点) ②最終受講者数30名以上 [10名] ③英検2級レベル以上20名以上 [新規]</p> <p>(2) 課外活動等における府大会等レベルでの入賞数3件以上 [新規]</p> <p>(3) 実施予定の大学交流等3件以上 [実施不可]</p>	<p>(1) ①GTEC for STUDENTS+Speaking 1年:960点以上9名/832点以上38名 704点以上65名/640点以上73名 2年:1088点以上5名/960点以上22名 832点以上67名/704点以上80名 (◎)</p> <p>②NETによる英会話講座に37名参加した。(○)</p> <p>③英検2級レベル以上35名に達した。(◎)</p> <p>(2) 入賞数5件 ・ダンス部、軽音楽部 全国大会出場 ・陸上部(男子やり投げ) 近畿高校ユース大会出場 ・ダンス部 大阪高校芸文祭 最優秀賞 ・人権作文コンクール 府優秀賞 (◎)</p> <p>(3) 大学教授による講演はコロナの影響により、1回行っただけであった。(○)</p>

## 府立和泉高等学校

4 進路指導を強化する	<p>(1) 入学時から進路目標を意識させる</p> <p>(2) 学力生活実態調査や模試を実施し自分の学力と進路目標とを意識させる</p> <p>(3) 外部講師を招聘し将来への高い志を持たせる</p>	<p>(1) ①入学時より大学ごとの偏差値等の情報を提供する。 ②早期から大学のオープンキャンパスへ参加させる。</p> <p>(2) 学力生活実態調査又は教育産業による模試を受験させ、結果を個人面談や保護者懇談にフィードバックし、以後の学習方針に役立てさせる。</p> <p>(3) ①生徒・保護者対象の教育産業等の講師による進路説明会を実施する。 ②大学・大学院に在籍する卒業生を招聘し、大学の学びや魅力、自身の将来等について伝え、生徒の進路選択や高い志の涵養に寄与する。</p>	<p>(1) ・2022年度大学共通テストの結果 各科目とも偏差値平均 52 以上（ただし 10 人未満の科目は除く） [共通テスト 17 科目中、偏差値 52 以上 9 科目] ・2022 年度入試における大学現役合格数 【旧帝大、早稲田・慶応・上智大等】 京大・阪大・神大 計 10 以上 早稲田・慶応・上智大等 [ 3 ] 【関西圏の主な国公立大、同志社・立命館・関西学院大、MARCH 等】 大阪市大・大阪府大 計 75 以上 同志社・立命館・関学大・MARCH 等 [ 74 ] 【他の地方国公立大、関西大等】 和歌山大・関西大等 計 120 以上 [ 204 ] 【海外の大学】 計 3 名以上 [ 0 ]</p> <p>(2) 学校教育自己診断（進路についての面談や相談が十分に行われている）の生徒・保護者の肯定的回答 70%以上を維持する [生徒 91%，保護者 83%]</p> <p>(3) ①進路説明会 各学年 1 回以上、保護者 1 回以上 [1 年 1 回、2 年 2 回、3 年 1 回、保護者 1 回] ②大学生等の招聘 1 回以上 [未実施]</p>	<p>(1) (2) (3) ・2022 年度大学入学共通テスト 17 科目中 5 科目において、本校の偏差値は 52 以上であった。今回、数学・理科等が難化し全国平均点が大きく下がったことから、昨年より結果が出なかったと考えられる。(△)</p> <p>・大学現役合格者数 (○) 【旧帝大、早稲田・慶応・上智大等】 京都・大阪・神戸大、早稲田・慶応・上智大等 [ 3 ] 【関西圏の主な国公立大、同志社・立命館・関西学院大、MARCH 等】 大阪公立大、同志社・立命館・関学大・MARCH 等 [ 104 ] 【他の地方国公立大、関西大等】 和歌山大・関西大等 [ 249 ] 【海外の大学】 マレーシア・中国 [ 2 ]</p> <p>(2) 生徒 92%、保護者 82% が肯定的回答であった。引き続き、高い肯定的回答率を維持していきたい。(○)</p> <p>(3) ①進路説明会は、各学年の生徒向けに 2 回、保護者向けに 1 回をそれぞれ実施した。(○) ②大学生等の招聘は、コロナの影響により実施できなかった。(一)</p>
5 修学が困難な生徒を支援する	<p>(1) 必要に応じて支援チームを組織する</p> <p>(2) 相談体制を充実する</p>	<p>(1) 外部機関（医師、府教育庁及びカウンセラー等）、管理職、担任及び校内の教育相談担当者からなる支援チームを組織し支援にあたる。海外からの留学生に対して、地元関係団体と連携して日本語教室を開講する。</p> <p>(2) ①スクールカウンセラーによる生徒及び保護者への教育相談を実施する。 ②相談室を日常的に開放する。 ③学期毎に就学対策委員会を開催し、支援が必要な生徒について情報共有し、必要に応じて合理的な配慮を講じる。</p>	<p>(1) (2) 学校教育自己診断（生徒の相談に丁寧に応じている）の生徒の肯定的回答 80%以上を維持する [肯定的回答 89%]</p>	<p>(1) (2) 肯定的回答 92%であった。今後とも、高い肯定的回答率を維持していきたい。(○)</p>
6 校務整理と人材育成を図り、教育効果の高い学校運営を行う	<p>(1) 各学年・分掌が人権教育推進の観点を踏まえ、企画・実行する</p> <p>(2) 経験年数の少ない教員を登用し、ミドルリーダーに育成する</p> <p>(3) 学校運営協議会を各方面から貴重な提言を得られる機会とする</p> <p>(4) 教員の時間外労働時間を削減する</p>	<p>(1) 全ての教育活動において、いじめ防止等の人権教育推進の観点を踏まえ、効果的かつ迅速な学校運営を行う。</p> <p>(2) 分掌長等に経験年数の少ない教員を登用し、新しい発想や提案を取り入れ、校内組織の活性化を図る。さらに管理職・首席・指導教諭らによる経験年数の少ない教員リーダーへの指導助言を推進し組織マネジメント力を育成する。</p> <p>(3) 年 3 回（6 月・8 月・1 月）実施する。</p> <p>(4) ①教員の業務量平準化への取組みを推進する ②教職員の業務内容を精査する ③部活動の時間を削減できる効果的な活動方法を検討・実行する ④ノークラブデー及び一斉退庁日を実施する</p>	<p>(1) 各部署で提案された企画の実施数 2 項目以上を維持する [職員同和研修、職員人権研修を実施]</p> <p>(2) 分掌長等に経験年数の少ない教員を登用する [分掌長等 10 人中 4 人が初任者配置教員]</p> <p>(3) 学校運営協議会において、3 分の 2 以上の委員からの「提言を学校運営に効果的に取り入れている」との評価を得る [委員全員からの肯定的評価あり]</p> <p>(4) ①②会議の回数を前年度より減らす [職員会議の回数 22 回] 校務分掌数、委員会数を減らす [5 委員会を廃止] ③④部活動で的確に実施する [定期的に確認]</p>	<p>(1) 教職員研修を 3 回実施した。 ・タブレット使用に関する ICT 研修 ・観点別学習状況評価に関する研修 ・人権教育推進に関する研修 (○)</p> <p>(2) 今年度、分掌長等に経験年数の少ない教員[初任者配置教員]を 5 名登用し、学校全体の活性化を図った。(○)</p> <p>(3) 頂戴した提言 8 項目のうち 6 項目を取り入れた。残り 2 項目も検討中。(○)</p> <p>(4) ①②職員会議を 18 回に減らし委員会を 5 つ廃止するとともに、来年度の校務分掌数を 6 → 5 に減らすことに決定した。(○) ③④各クラブとも実施できた。(○)</p>
7 学校を広く発信する	<p>(1) 学校紹介資料・媒体を充実させる</p> <p>(2) ①オープンキャンパスの内容を充実させる ②学校説明会を工夫する</p>	<p>(1) 学校パンフレットを活用し、本校の教育活動を地域に発信する。</p> <p>(2) ①生徒の活躍する様子を見てもらえるよう、オープンキャンパスの内容を改善する。 ②校外における学校説明会や中学校訪問時の説明資料や提示方法を工夫し改善を行う。</p>	<p>(1) 学校パンフレットの配付部数 4500 部以上を維持する [約 4200 部（学校説明会を 1 日のみ開催）]</p> <p>(2) 中学 3 年生進路希望調査における本校志願倍率 1.5 倍以上を維持する [第 2 回希望調査 1.43 倍]</p>	<p>(1) 学校パンフレットの配付部数 4500 部を配布した。また、学校説明会に中学生約 600 名が参加した。(○)</p> <p>(2) 第 2 回進路希望調査の本校志願倍率は 1.38 倍と目標に達していないものの、4 学区平均倍率が 1.14 倍、また、旧 9 地区の中学卒業生数が昨年度に比べ減少した中では、これまでの状況の中の目標値 1.5 倍に概ね準じていると考えられる。(○)</p>